あなたの「やってみたい」を応援します!!

ゆめこらぼ通信

第 29 号
平成26年2月1日
（隔月発行）

発行：西東京市市民協働推進センター　ゆめこらぼ　〒188-0012　東京都西東京市南町 5-6-18 イングビル１階

過去最大の NPO 市民フェスタと地元の絆

12 月 7 日（土）開催の第 5 回 NPO 市民フェスティバルは、参加 73 団体、参加者約 400 名と過去 4 回を大きく上回る規模となり、今回のテーマ「地元でつなぐ支えあい」にふさわしく、参加団体と市民が一体となり活況を呈しました。

開会の後、丸山市長による市民活動への激励の挨拶に続き、松本すみ子氏の基調講演「地元にいかす市民力」では生涯現役志向、地元デビューから趣味やボランティアなど第二の人生を豊かにするためのヒントがたくさんありました。

従来と展示方法が変更となった展示会場では、各団体がそれぞれ工夫を凝らして、活動内容を紹介していました。アンケート結果からも、団体同士の交流しやすい展示方法だったと好評でした。

〈市長挨拶〉

〈講演・松本氏〉

〈会場のきらっと〉

〈団体展示〉

同時開催された「お父さんお帰りなさいパーティー(おとぱ)」の参加者がおとぱツアーと称し各ブースを回って熱心に説明を聞く姿も見うけられました。参加者のアンケートからは「これまで経験したことのない何か新しいことを地域で始めたい」という期待が込められた意見が多く、地元に新たな絆を予感させる NPO 市民フェスティバルとなりました。

＜参加者の声から＞

初参加の市民から、「団体の実績が目に見える形で展示されており、これから市民活動をしていく参考になった。身の丈にあった事に少しずつ取り組みたい」とのお声をいただきました。また、市民活動をしている市民は、「新しい団体が増えていることがわかった。自分たちと同じような目的の団体が増えることは私たちの活動に刺激をもたらす」と話されていました。

今回、初めて展示参加した NPO 団体代表者は、「今まで知らなかった団体と交流するきっかけとなったことは有意義だった」という、ゆめこらぼにとってもうれしい声をいただきました。

また、フェスティバルに協力いただいた武蔵野大学社会福祉学科の学生は、「地域と大学との交流の機会が少ないので、とても良い体験が出来ました。これからもまたボランティア活動をしたいと思います」と、今後も積極的に地域活動に関わっていこうという心強い言葉がありました。

まちづくり円卓会議
居場所づくりについて

11 月 21 日(木)に、今年度 2 回目のまちづくり円卓会議「障がいがある人もない人もわけない居場所づくり」を防災センター講座室で公開の上、開催しました。

第 1 部で約 30 名の参観者を対象にまちづくり円卓会議の経緯を説明し、第 2 部からファシリテーターとアシスタント、会議メンバー7 名が加わって、まちづくり円卓会議が始まりました。

前半は、「どのような連携ができるか。どうしたら居場所に来てくれるか。いつもの場所でなく、行きたいところにどうしたら行けるのか」などについて自由に発言しました。後半は、当事者としてどのような場所に行きたいのか参観者にも意見を求め、「どのようなことができるか」「どのようにしたら既設の居場所に来てくれるのか」について意見交換をしました。休憩時間も会場にいるみなさまの積極的な情報交換があり、とても盛り上がった会議となりました。

次回は、3 月 10 日(月)13:30 開催予定です。

地域連携促進事業
柳沢公民館のチャレンジ講座で市民と NPO・市民活動団体が交流

柳沢公民館の連続講座「人にやさしいまちづくりチャレンジ講座」の第 11 回目が 1 月 9 日(木)に「協働のまちづくりを目指して」をテーマに開催されました。

協働コミュニティ課から「協働のまちづくり」についての説明、ゆめこらぼの紹介に続いて受講者 15 名と NPO・市民活動団体 11 団体との交流会が行われました。交流会は、「まちのどのような課題を解決したいと思っていますか？」「課題解決のために大切にしたいことはどのようなことですか？」を話題に、少人数でメンバーが交代しながらのワールドカフェ方式で話合しあいました。受講者にとっては市内で多くの団体が活動していることを知る良い機会になり、団体にとっても市民の声を聞きモチベーションも上がった充実した半日となったようでした。

近隣6市中間支援組織
西東京市で情報交換会を開催

西東京市のほか、小平、八王子、日野、府中、三鷹の近隣 6 市の中間支援組織で年に 3 回程度行なっている情報交換会も今回で 12 回目となりました。

今回は、1 月 23 日（木）西東京市での開催を機に、協働コミュニティ課浜名課長から当市の協働の基本方針や地域コミュニティの取り組みについて説明がありました。他市の参加者からは、地域コミュニティ関連で熱心な質疑が交わされました。

その後に行なわれた情報交換会ではそれぞれの地域での活動状況や今後の協働に関するシンポジウムの開催予定などの情報交換が行われました。また、年末・年初に開催された NPO 法施行 15 周年記念イベントの紹介が行われました。

マドレボニータ西東京チーム
産んだらどうなる・どうする・・どう生きる？

1 月 26 日(日) 開催されたゆめサロンは妊娠中の方、夫婦で産後を考えたい方、産後まもない方、これから産後の事を知りたい方、地域の妊産婦を支えたい、または現在支える活動に関わっている方など様々な立場で、16 名の参加がありました。

講師に NPO 法人マドレボニータ事務局スタッフで、マドレボニータ西東京チームの太田智子さんをお迎えしました。前半は産後の現実と備え、パートナーや地域との関わりのポイントをわかりやすくお話していただき、真剣な表情で皆さん聞き入っていました。後半はワークショップ形式で参加者同士が交流しながら、和やかなムードが広がりました。

参加者からは、とても大切な活動なので、ぜひ多くの方にお伝えしたいとの声がありました。

◆◆登録団体活動紹介◆◆

マンマミアプラス！『西東京プレーパーク★キャラバン』

公園をはじめ、子どもを取り囲む環境は「制限」が付き物です。「マンマミアプラス」では子どもだけでなく、付き添ってきた大人も運営するスタッフも楽しめて、やりたいことをする活動を毎月第四日曜日に市内の公園を使いキャラバン方式で遊び場作りをしています。今回は谷戸せせらぎ公園で豚汁、焼き芋を作りマシュマロも焼いて食べました。火を使って持ってきたおにぎりを焼いたり、リンゴとキャラメルを一緒に焼いたらとてもおいしいということを発見しました。様々なアイディアが形になって形になっていくので、「心がワクワクするやりたいこと」を遊びながら探していく子供たちの姿を見ていると、一緒にいる大人まで嬉しくなってきます。

（かまどの使用は許可を得ています）

（マンマミアプラス！宇野愛子記）

こそだてフェスタ@西東京実行委員会『第３回こそだてフェスタ@西東京』

思っていた以上に子育ては大変、と感じているママやパパが楽しめて、子育てに関する情報や自分たちに合ったサークル、支援団体を見つけることができる場となることを目指して始まった「こそだてフェスタ@西東京」も今年で３回目となりました。

今回は、ひばりが丘児童センターに会場を移し、西東京市の共催、参加34団体で、11月24日（日）に開催されました。

毎年恒例となった市内のサークルや団体を紹介する「こそだてサークルMAP」や子育て体験を共有する「みんなのこそだて年表」のコーナーをはじめ、各団体の出展・展示コーナーでの親子で遊べる工作・ゲームやワークショップ、育児相談やママのリフレッシュコーナー、屋外でのプレーパークなどがあり、沢山の来場者に好評な催しでした。

環境まちづくりNPOエコメッセ西東京 子どもの目で見たチェルノブイリ絵画展

リユースショップを運営する市民活動団体「環境まちづくりNPOエコメッセ西東京」は水緑木地（すいりょくきち）田無店で、チェルノブイリ被災者の慈善市民団体「ゼムリャキ(Zemlyaki 意味は同郷人)」が企画する「子どもの目で見たチェルノブイリ」というテーマで描かれた絵が展示されました。子ども達の純粋な心で描いた絵には言葉はいりません。チェルノブイリ原発から30ｋｍ圏内の立ち入れない場所や人の住めなくなった家のことを聞いた子どもたちが描いた絵を展示しています。地球にやさしい暮らし方の取り組みをしている環境まちづくりNPOエコメッセ西東京のお店は品物を見ているだけでも楽しめます。

ぶーけ 障害福祉課長との懇談会

１月９日(木)西東京市障害福祉課萩原課長をお迎えし、市内学齢期の障がい児を持つ保護者との懇談会を開催しました。ぶーけ会員と一般参加者合わせて35名が参加しました。

平成26年度以降10年間の障害者基本計画(素案)の詳細を伺いました。ヘルプカード&サポートバンダナの普及による緊急時の対策や、障がい者への理解、啓発についても市が力を入れている姿勢が感じられました。基本計画を理解できただけでなく、障害福祉課に親しみを感じ、障がい児のこれからの生活について考えるきっかけとなったという声が参加者から多く寄せられました。

（ぶーけ久松順子記）

締切間近の助成金情報

地球環境基金助成金

◆締切：2014年２月12日

◆問合：独立行政法人　環境再生保全機構

http://www.erca.go.jp

イベント情報

参加と協働のまちづくり（シンポジウム）

◆日時：２月17日14：00～16：30

◆場所：西東京市役所保谷庁舎研修室(４階)

◆講師：正満たつる子氏(NPO法人みたか市民ネットワーク代表幹事)　◆問合：ゆめこらぼ

個性を支えるツール活用術

◆日時：２月22日13：30～16：00

◆場所：コール田無多目的ホール(地下１階)

◆講師：中邑賢龍氏(東京大学先端科学技術研究センター教授)　◆問合：ゆめこらぼ

ゆめサロン 次回のご案内

企業の社会的責任CSRの取組みについて

◆日時：３月５日18：30～20：00

◆場所：ゆめサロンコーナー(ゆめこらぼ内)

◆講師：損保ジャパン ちきゅうクラブ　岸正之氏

募集情報

NPO法人稲門寺子屋西東京の新学期入学生募集

経済的理由で塾に通っていない、家庭教師に教わっていない、公立校に通う新小学５年生～中学２年生までの児童・生徒に無料で教えます。公民館にチラシをおいてあります。

◆科目：国語、算数・数学、英語

◆対象：公立の新小学５年～中学２年

◆詳細：http://www.terakoya-nt.org

◆問合：080-4125-1038 小嶋

新たな登録団体 ＜2013年11月～12月＞

◆ALDの未来を考える会

目的：ALDの認知・理解を深めるために講演会やセミナーなどを通じ啓発活動を行う。

◆FP集団コンパスエイト

目的：ライフプランに沿ったお金に関する相談や助言によって市民の支援を行う。

＜12年12月末現在で118団体になりました＞

みんなの本棚

女の絆と底力：西東京市の女性の聞き書き集・年表
編集・発行　西東京市女性史研究会
女性から女性へ受け継がれる地域のバトン

「あなたは田無の人？ならば『どんぐりの会』の鳥海さんを知っているでしょう」と知人に言われ驚いたことがあります。地元では“ちょっと怖いおばさん”として知られた鳥海志げ子さんが、行政課題に対する問題提起型のミニコミ誌『田無・保谷どんぐり』を34年間発行し続け、市民運動家の間で一目おかれる存在だったことを初めて知りました。聞き書き集『女の絆と底力』に出てくるのはそんな鳥海さんをはじめ、戦後の田無・保谷のまちづくりに身を投じた行動力にあふれる“名も無き市井の人”です。道路はぬかるみ、上下水道もごみ捨て場も無い、学校も保育所も足りない時代にあって、彼女たちは協働保育を立ち上げ、子ども文庫を創設し、PTA活動や婦人会活動などを通じて暮らしの中の困りごとを自ら解決していきます。「（自分たちの地域のことは）自分たちでつくって、自分たちで会議して、自分たちで決めていく」という言葉に宿る市民自治の精神は時を越え、いまなお躍動感をもって私たちに迫りくるものです。

激動の時代を生きた女性たちのドラマは、今の時代を生きる女性たちの手による丁寧な聞き書きを経て、一冊の本となり、私たちの元に届けられました。この本のタイトルでもある『女の絆と底力』こそが、記録とともに地域の女性から女性へと受け継がれる“見えないバトン”であることを同じ地域に生きる女性のひとりとして願わずにはいられません。

（南町在住　加藤涼子氏）

西東京市　市民協働推進センター　ゆめこらぼ
〒188-0012 西東京市南町5-6-18 イングビル1階
Tel:042-497-6950　Fax:042-497-6951
E-mail:yumecollabo@ktd.biglobe.ne.jp
http://www.yumecollabo.jp/
ゆめこらぼ モバイルページ
開館時間　午前10時～午後9時
休館日　毎週火曜日（祝日の場合は開館し次の平日が休館日）